

第10回 球磨川下流域環境デザイン検討委員会

萩原堤防のデザインについて

[ 参考資料 ]



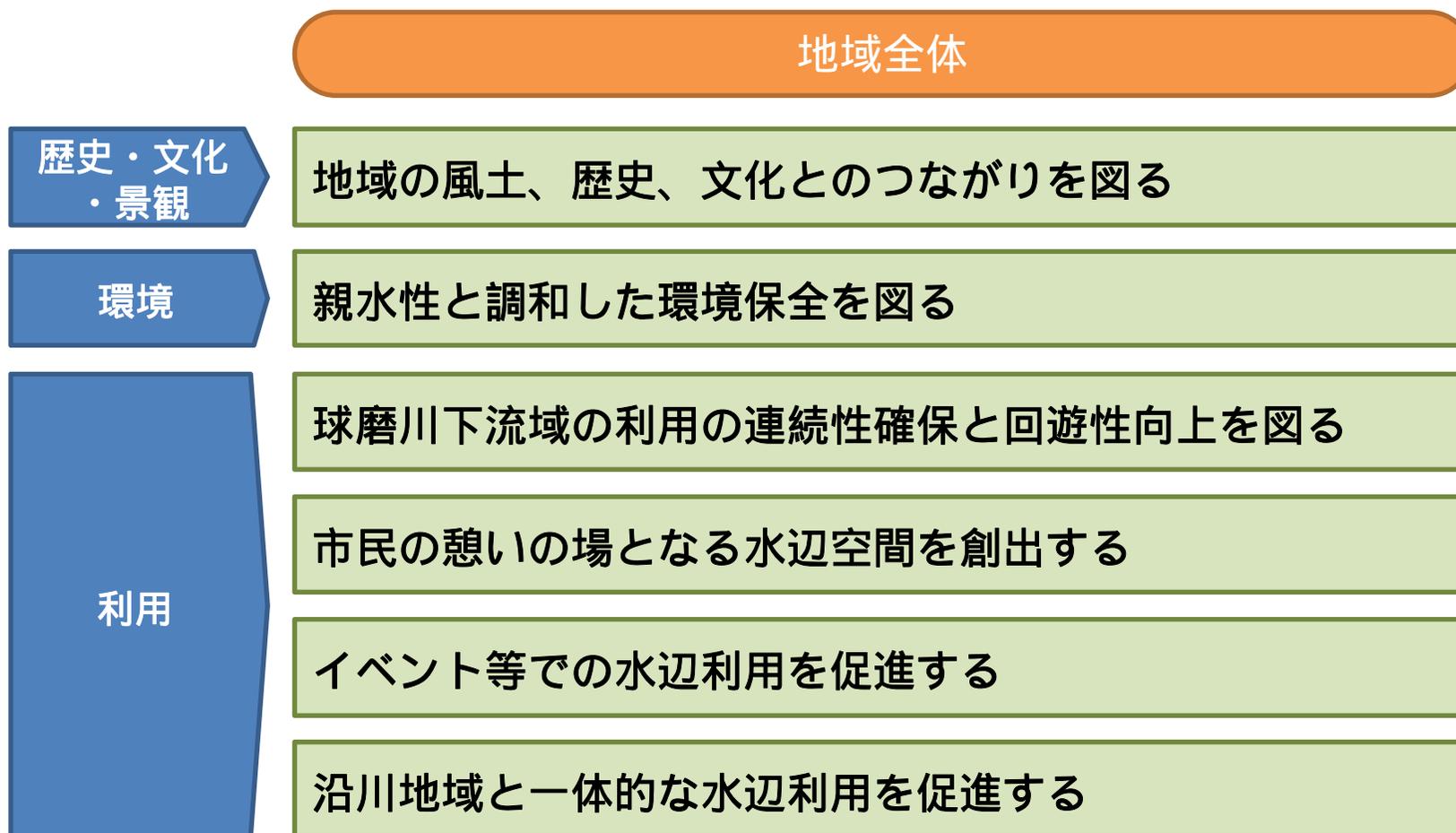
平成29年12月4日

国土交通省 八代河川国道事務所

# 景観形成の基本的な考え方

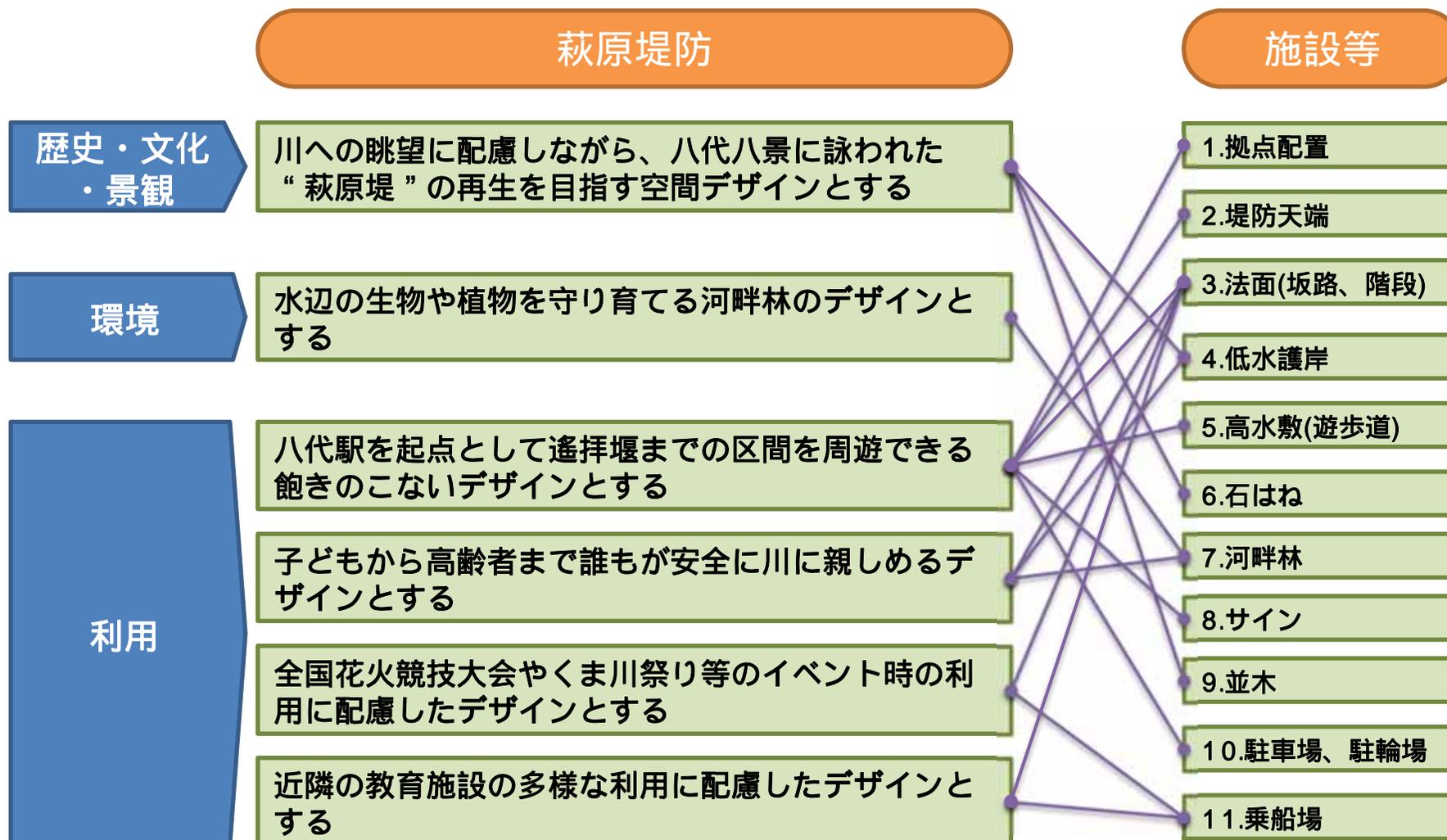
## 景観形成の基本的な考え方（地域全体）

地域全体の景観形成の基本的な考え方は、地域の安全・安心を第一の基本に、地元意見を踏まえ、基本的な考え方を「歴史・文化・景観」「環境」「利用」の視点から設定し、萩原堤防の整備方針に反映する。



## 景観形成の基本的な考え方（萩原堤防）

萩原堤防の景観形成の基本的な考え方は、地域の安全・安心を第一の基本に、「歴史・文化・景観」「環境」「利用」に配慮したデザインを設定する。

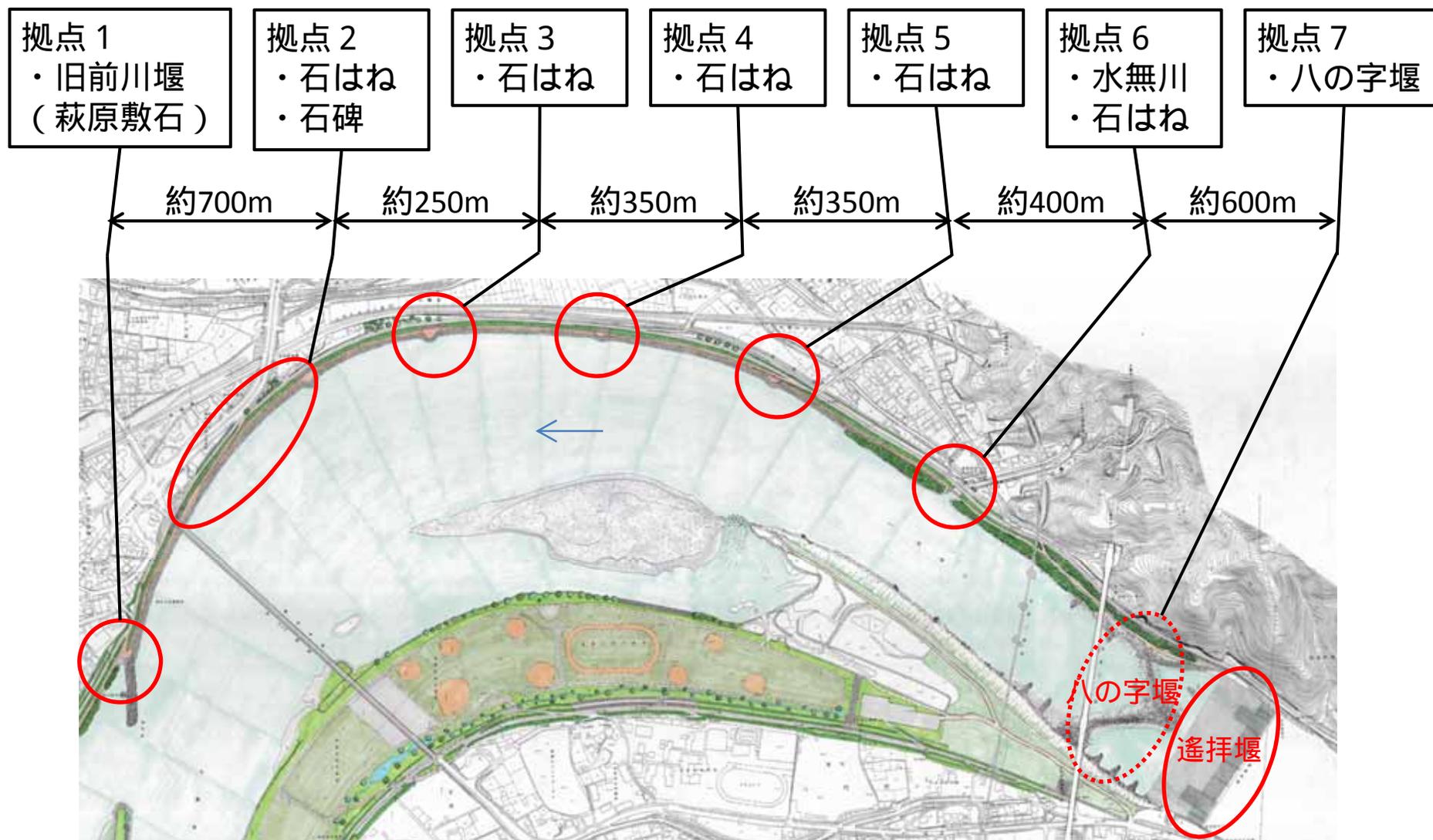


施設等	整備方針
1.拠点配置	1-1 石はねや記念碑などを活用し、水辺の拠点を適度な間隔で配置する。
2.堤防天端	2-1 堤防天端に連続した自転車歩行者道を整備し、水辺の拠点をつなぐルートを確認する。 2-2 堤防天端に交通安全施設を整備し、利用する自転車・歩行者の安全を確認する。
3.法面（坂路（スロープ）、階段）	3-1 全国花火競技大会の観覧席として利用できるような法面は緩やかな勾配とする。（一部には坂路（スロープ）、階段を設ける） 3-2 高齢者をはじめとして誰もが安心して水辺に近づく経路として整備する。（一部には坂路（スロープ）、階段を設ける） 3-3 拠点の整備メニューなどを考慮して、必要な幅員を確認する。
4.低水護岸	4-1 堤防の機能を確認したうえで、川らしい風景と一体化したものとする。 4-2 水際部の利用者の安全性に配慮する。
5.高水敷（遊歩道）	5-1 高水敷に連続した自転車歩行者道を整備し、水辺の拠点をつなぐルートを確認する。

施設等	整備方針
6.石はね	6-1 堤防の機能を確保したうえで、当時の石はねを復元する。
7.河畔林	7-1 水衝部の堤防の保護及び多様な動植物の生息環境保全のため、現状の河畔林を保全・管理する。 7-2 拠点周辺の河畔林は、高水敷から水面への眺望及び水際の利用者の安全面に配慮する。
8.サイン	8-1 堤防から眺望できる歴史文化施設の説明サインや案内サインを充実させ、施設への誘導効果の向上を図る。 8-2 近隣の地域資源や交通アクセスへの案内を充実させ、川とまちの一体的な回遊行動を誘導する。
9.並木	9-1 堤防の機能を確保したうえで、八代八景に詠われた当時の並木を復元する。
10.駐車場・駐輪場	10-1 自動車でのアクセスに配慮して、拠点に近接した位置に駐車場を整備する。 10-2 各拠点には自転車利用者のための駐輪場を整備する。
11.乗船場	11-1 遊覧船、屋形船、筏、ボートなどが離着岸できる施設を下流部の拠点に整備する。

## 萩原堤防の拠点の考え方

石はねや記念碑などを活用し、水辺の拠点を適度な間隔で設置する。



拠点・ネットワーク図

萩原堤防に沿って7つの拠点を設定し、拠点間にネットワークとして動線を位置づけ

